《論　文》

平成30年度の教育実習での教師経験

―４年生のゼミ活動としてのウェブアンケート調査から―

三木ひろみ，阿部　　巧，阿部　雄真，新井　悠介，大町　　敦，
蔭平　大智，木村　早稀，鈴木　雅喜，都築　拓馬，野上　里佳，
宮坂　勇大，渡邉　紗慧，三浦　棋介

Teaching experiences in teaching practice at school in 2018:

A web survey on what the student teachers had difficulties in and how they solved.

Hiromi MIKI, Takumi ABE, Yuma ABE, Yusuke ARAI, Atsushi OMACHI,
Daichi KAGEHIRA, Saki KIMURA, Masaki SUZUKI, Takuma TSUZUKI,
Rika NOGAMI, Yudai MIYASAKA, Sae WATANABE, Kisuke MIURA

キーワード：教育実習，教師経験
Key Words: teaching practice, student teacher

平成30年度４年生のゼミ活動として，教育実習中に苦労したことやそれらの解決策を実施できたかを尋ねるウェブアンケート調査を行った。多くの教育実習生が苦労したこととして，「教材研究」，「授業の進め方」，「指導案の作成」，「生徒の技能差への対応」，「専門的なアドバイス・技能指導」，「学習課題の難易度」，「生徒の意欲」，「生徒との距離」が挙げられ，スポーツを指導した経験がなかった教育実習生の方が苦労が多いことが示された。また，実習を通じて次第にこれらの苦労に対応する手立てを実施できるようになっていくが，友人に尋ねたり指導書を参考にして自分の知識不足を補うことや，技能の低い生徒に対する教具・教材・教示の工夫，厳しくすべき時には厳しくすること，既存の学習カードの活用などの手立てが，最初からできていた教育実習生は，これらに関連する苦労が少ないという傾向が見られた。

1．４年生のゼミ活動としての「教育実習での教師経験についての調査」のプロセス

本稿では，平成30年度に４年生のゼミ活動として行った「教育実習での教師経験」についてのウェブ調査の実施までのプロセスと，調査結果を報告する。

４年生のゼミの研究テーマを決めるに当たって考慮したのは，１）ゼミ生全員が教育実習を経験し教員志望の学生が多かったことから，教育実習を振り返って今後のキャリアに活かすことができること，２）最終学年の学生として来年度教育実習を経験する後輩に役立つテーマであること，３）個々のゼミ生の興味関心や将来の進路についての考えには違いがあるので，各自の興味や考えをできるだけ活かすことができるテーマであることである。これらの点を考慮した理由は，ゼミ生に共通する教えることに対する興味関心と各ゼミ生の興味関心の個人差の両方を活かすため，それぞれが他の誰でもない自分の興味関心で決めたテーマに関する活動を必ず自分の責任で行なうため，加えて自分だけでなく誰か（ここでは後輩）のためになることを考えて活動するためである。

平成30年度の４年生のゼミが始まると，教育実習の事前訪問やオリエンテーション，就職活動などで全員が揃うことが少なくなったが，教育実習に向けて指導案の作成や板書の練習，模擬授業などをゼミの時間に行い，教育実習に行く前に教育実習で特に学んで来たい各自のテーマを決めた。自分が決めたテーマについて教育実習期間中に学んだことを記録しておけるように，教育実習ノートには必ずそのテーマに関することを毎日一言でも記入することも決めた。教育実習の時期や期間はそれぞれ異なり，秋に実習を行なった学生もいたが，いずれの学生も，実際に教育実習が始まってみるとそれぞれが直面した状況や実習中に興味を引かれたことは，自身が予想していたこととは違っており，教育実習後に改めて教育実習に関するテーマを考え直すことになった。そして教育実習後，改めて教育実習中に自身が苦労したことや特に興味をもったこととして，指導案の作成や教材研究，生徒の学習意欲と楽しい授業づくり，生徒との距離感，生徒に対するフィードバックや言葉かけ，生徒の技能差，ペアやグループ分け，学習カードの活用が挙げられた。

ウェブアンケート調査の質問項目を作成するためにゼミ生は，それぞれが選んだ教育実習のテーマに関して，教育実習中に具体的にどんなことに困りどのように苦労したか，それらの苦労や困りごとをどのように解決したかを文章にした。解決方法を挙げる際には，実際に自分が行なったことや実習校の指導教員から指導されたことを挙げるだけでなく，先行研究[1)，2)，3)，4)，5)，6)，7)，8)]を検索して参照し，実証されている解決策を挙げるようにした。ウェブアンケート調査票は，回答者の性別やスポーツ指導経験等を尋ねる項目，教育実習の実習校の校種やクラスサイズ，授業形態などを尋ねる項目，教育実習中に困ったり苦労したことを尋ねる項目と，それらに対する解決策を教育実習中に行なうことができたかについて尋ねる項目で構成した。教育実習中に困ったり苦労したことに関する質問項目は，そうした困りごとが教育実習中にあったかどうかを，「１．全くなかった」「２．ほとんどなかった」「３．少しあった」「４．かなりあった」の４段階で回答させ，解決策については，教育実習期間中に行なうこと

ができたかを，「１．最後までできなかった」「２．なかなかできなかった」「３．徐々にできるようになった」「４．最初からできていた」の４段階で回答させることとした。解決策の実施について，「どの程度できたのか」ではなく，「教育実習期間の最初から最後までの間にできるようになったか否か」を回答する形式にした理由は，教育実習生の場合，３週間以上の実習期間の間に様々なことを学び身に付けていくため，最終的にどの程度できるようになったかを尋ねるよりも，どの段階でできていたかを尋ねる方が，教育実習に向けての準備に役立つ知見が得られると考えたためである。このようにして作成した質問項目を用いてGoogleフォーム（https://www.google.com/intl/ja_jp/forms/about/）でウェブアンケート調査票を作成した。

２．ウェブアンケート調査の実施

ウェブアンケート調査は，平成30年11月26日に実施した。本調査は，2018年度教育実習を行なった学生を対象としているため，2018年度教育実習生を対象とした授業のmanabaの掲示板にウェブアンケート調査票にアクセスできるURLを挙げてもらい，授業中に調査についての紹介と回答を依頼した。依頼に当たっては，調査票の最初に，授業の成績には全く関係ないこと，教育実習を振り返ることによって教育実習生に役立てることと，次年度の教育実習生に役立ててもらうことを目的としているので回答に協力してほしいこと，無記名で回答するため回答者の特定ができないこと，集計した結果を分析するので個人の回答が明らかになることもないことを明記した。ウェブアンケート調査によっては回答者のメールアドレスを収集するものもあるが，本調査では回答者の氏名や学生番号もメールアドレスも収集しなかった。

３．調査の結果及び考察

１）教育実習期間・実習校・担当学年・担当クラス

回答者数は97名（女性26名，男性71名）であった。

表１　教育実習期間

３週間	４週間	５週間
36%	63%	１％

教育実習期間（表１）は，４週間が最も多い（63％）が，３週間の場合も少なくない（36％）。実習校の校種（表２）は，高校の方が多く（56％），高校での担当学年は３年生（43％）よりも１年生（53％）・２年生（56％）の方が多いが，中学校での担当学年には大きな学年差はない（表３）。

担当した授業の形態（表４）は，男女共習が最も多く（55％），女子クラスは最も少ないが（42％），女性の教育実習生が全体の27％であることから，男性の教育実習生も女子のみのクラ

表２　教育実習校の校種

中学校	高等学校	中高一貫校
38%	56%	６％

表３　保健及び体育授業を担当した学年（複数選択可）

中学１年	中学２年	中学３年	高校１年	高校２年	高校３年
33%	33%	31%	53%	56%	43%

表４　担当した授業の形態（複数選択可）

男女共習	男子クラス	女子クラス
55%	51%	42%

スを担当していることが分かる。担当していたクラスのサイズ（表５）は，40人以下が多いが，１人当たり40人を越える（11％）あるいは60人以上の合同クラス（７％）を担当した教育実習生もいたことが分かる。

教育実習生として担当した体育授業の種目（表６）については，高校・大学の部活動で経験していた種目のみを担当していた教育実習生は19%のみで，半数以上の教育実習生が，専門種目ではない種目を２種目以上教えていた。

表５　担当していた体育授業のクラスの人数（複数選択可）

20人未満	20人～30人	31人～40人	41人～60人	60人以上
８％	37%	60%	11%	７％

表６　高校・大学の部活動で経験していない種目（専門種目でない種目）の数

経験した種目のみ	１種目	２種目	３種目	４種目以上
19%	29%	36%	６％	10%

教育実習生のスポーツ指導経験については，高校・大学の部活動で経験している専門種目であるかそれ以外のスポーツ種目であるかに関わらず，スポーツ指導経験があるかどうかを尋ねた結果，表７に示すように，子供にも大人にもスポーツを指導した経験がなかった教育実習生が24%いたことが分かった。教育実習に臨むにあたって，様々なスポーツ種目についてスポーツを指導することを経験しておく必要があると言える。

表７　スポーツ指導の経験

なし	子供に指導	大人に指導	大人・子供の両方に指導
24%	59%	２％	16%

２）教育実習中に苦労したこと

表８は，教育実習中に苦労したことについての回答結果を示している。苦労したり困ったことが「かなりあった」「少しあった」と回答している教育実習生の割合が高かったのは，「教材研究」(94%)，「授業の進め方」(91%)，「指導案の作成」(87%)，「生徒間の技能差に対応した授業」(67%)，「専門的なアドバイス・技能指導が生徒に理解してもらえなかったこと」(66%)，「授業中の課題が難しすぎたり簡単すぎたりしたこと」(63%)，「生徒が授業に飽きたりつまらなそうにしていたこと」(61%)，「生徒との距離が近くなりすぎて友達関係のような言葉づかいになってしまったこと」(60%) であった。一方，苦労したり困ったことが「ほとんどなかった」「全くなかった」と回答している教育実習生が多かったのは，「体格差のあるペア・仲の良くないペアができて困ったこと」(73%)，「技能差のあるペアができて困ったこと」(70%)，「生徒との距離が近くなりすぎて，大事な内容について話しているときに生徒がまじめに受け取っているか分からないというようなこと」(69%) であった。

スポーツ指導の経験の有無が教育実習期間中に苦労したことに関係しているのかどうかを検討するために，「スポーツを指導した経験がない」と回答した教育実習生23名と，「子供・大人・あるいはその両方にスポーツを指導した経験がある」と回答した教育実習生74名の２群に分け，教育実習中に苦労することがあったという回答が多かった，「教材研究」，「授業の進め方」，「指導案の作成」，「生徒間の技能差に対応した授業」，「専門的なアドバイス・技能指導が生徒に理解してもらえなかったこと」，「授業中の課題が難しすぎたり簡単すぎたりしたこと」，

表８　教育実習期間中に苦労したこと

	かなりあった	少しあった	ほとんどなかった	全くなかった
教育実習中，指導案の作成に苦労したこと	48%	39%	12%	１％
教育実習中，教材研究に苦労したこと	51%	43%	５％	０％
教育実習中，授業の進め方に苦労したこと	34%	57%	９％	０％
教育実習中，生徒とどう関わったらいいか悩んだこと	９％	47%	36%	７％
生徒との距離が近くなりすぎて，友達関係のような言葉づかいになってしまったこと	14%	45%	28%	12%
生徒との距離が近くなりすぎて，大事な内容について話しているときに生徒がまじめに受け取っているか分からないというようなこと	２％	29%	47%	22%
近寄ってきてくれなかったり話しかけてほしくなさそうな生徒に対して，どう関わったらいいか悩んだこと	４％	47%	30%	19%
生徒が授業に飽きてしまったりつまらなそうにしているというようなこと	７％	54%	36%	３％
生徒の自主的な活動を尊重して時間を設けても生徒が消極的で，自分が主導した方がいいのではないかと迷ったこと	３％	50%	40%	７％
授業の雰囲気を盛り上げようと生徒に発問や働きかけをおこなったときに，生徒の反応がなくて困ったこと	11%	38%	42%	８％
自分の考えた授業の課題が簡単すぎたり難しすぎたりしたことで，授業がうまく展開できなかったこと	５％	58%	32%	５％
生徒間に技能差があって，どのような授業をしたらいいか悩んだこと	８％	59%	31%	２％
専門的なアドバイスや技能の指導をしているときに，生徒に理解してもらえず困ったこと	５％	61%	29%	５％
単元を通じて学習カードを一度も活用しないままだった授業	22%	24%	27%	27%
学習カードを活用した方がいいか悩んだこと	４％	37%	35%	24%
学習カードの作り方が分からず困ったこと	５％	34%	35%	26%
番号順や背の順あるいは生徒の希望でペア分けをして，技能差のあるペアができて困ったこと	３％	27%	52%	19%
番号順や背の順あるいは生徒の希望でペア分けをして，体格差のあるペアができて困ったこと	１％	26%	50%	24%
番号順や背の順でペア分けをして，仲が良くないペアができて困ったこと	４％	23%	52%	22%

「生徒が授業に飽きたりつまらなそうにしていたこと」,「生徒との距離が近くなりすぎて友達関係のような言葉づかいになってしまったこと」について，２つの群の回答を比較した（表９～16）。

苦労したり困ったことが「かなりあった」「少しあった」と回答した教育実習生の割合は,「授業の進め方」（表９）についてはスポーツ

表９　「授業の進め方に苦労したこと」についての回答の比較

	スポーツ指導経験なし（n=23）	スポーツ指導経験有り（n=74）
かなりあった	48%	30%
少しあった	48%	59%
ほとんどなかった	4%	11%

表10　「指導案の作成に苦労したこと」についての回答の比較

	スポーツ指導経験なし（n=23）	スポーツ指導経験有り（n=74）
かなりあった	61%	43%
少しあった	35%	41%
ほとんどなかった	4%	15%
全くなかった	0%	1%

表11　「専門的アドバイス・技能指導の苦労」についての回答の比較

	スポーツ指導経験なし（n=23）	スポーツ指導経験有り（n=74）
かなりあった	9%	4%
少しあった	74%	57%
ほとんどなかった	17%	32%
全くなかった	0%	7%

表12　「授業中の課題が難しすぎたり簡単すぎたりしたこと」についての回答の比較

	スポーツ指導経験なし（n=23）	スポーツ指導経験有り（n=74）
かなりあった	13%	3%
少しあった	65%	55%
ほとんどなかった	17%	36%
全くなかった	4%	5%

表13　「生徒が飽きてしまう授業」についての回答の比較

	スポーツ指導経験なし（n=23）	スポーツ指導経験有り（n=74）
かなりあった	13%	5%
少しあった	57%	53%
ほとんどなかった	30%	38%
全くなかった	0%	4%

指導経験がある教育実習生（89%）の方が，スポーツ指導経験がなかった教育実習生（96%）よりも少なく，「指導案の作成」（表10，指導経験有り84%，指導経験無し96%），「専門的なアドバイス・技能指導が生徒に理解してもらえなかったこと」（表11，指導経験有り61%，指導経験無し83%），「授業中の課題が難しすぎたり簡単すぎたりしたこと」（表12，指導経験有り58%，指導経験無し78%），「生徒が授業に飽きたりつまらなそうにしていたこと」（表13，指導経験有り58%，指導経験無し70%）についても，運動指導経験がある教育実習生の方が困ることがあったという回答の割合が低く，運動指導経験があった方が困ることが少なかったと言える。

「教材研究」（表14）と「技能差に対応した授業づくり」（表15）については，苦労したり困ったことが「かなりあった」「少しあった」と回答した教育実習生を合計した割合にはほとんど差はなかったが，「教材研究に苦労したこと」（表14）が「かなりあった」という回答は，スポーツ指導経験がある教育実習生（50%）の方がスポーツ経験がなかった教育実習生（57%）よりも少なく，「生徒の技能差に対応した授業づくりの苦労」（表17）についても，「かなりあった」という回答は，スポーツ指導経験がある教育実習生（５%）の方がスポーツ経験がなかった教育実習生（17%）よりも少なかった。

しかしながら，「生徒との距離が近くなりすぎて友達関係のような言葉づかいになってしまうこと」（表16）については，「かなりあった」「少しあった」と回答した教育実習生の割合は，スポーツ指導経験がなかった教育実習生

表14　「教材研究に苦労したこと」についての回答の比較

	スポーツ指導経験なし（n=23）	スポーツ指導経験有り（n=74）
かなりあった	57%	50%
少しあった	39%	45%
ほとんどなかった	4%	5%

表15　「技能差に対応した授業づくりの苦労」についての回答の比較

	スポーツ指導経験なし（n=23）	スポーツ指導経験有り（n=74）
かなりあった	17%	5%
少しあった	48%	62%
ほとんどなかった	30%	31%
全くなかった	4%	1%

表16　「友達関係のような言葉づかい」についての回答の比較

	スポーツ指導経験なし（n=23）	スポーツ指導経験有り（n=74）
かなりあった	13%	15%
少しあった	43%	46%
ほとんどなかった	30%	27%
全くなかった	13%	12%

（56%）の方が，スポーツ指導経験があった教育実習生（61%）よりも少なかった。以上のことから，教育実習生が困ったり苦労することが多い「教材研究」,「授業の進め方」,「指導案の作成」,「生徒間の技能差に対応した授業」,「専門的なアドバイス・技能指導が生徒に理解してもらえなかったこと」,「授業中の課題が難しすぎたり簡単すぎたりしたこと」,「生徒が授業に飽きたりつまらなそうにしていたこと」,「生徒との距離が近くなりすぎて友達関係のような言葉づかいになってしまったこと」については,「生徒との距離が近くなりすぎて友達関係のような言葉づかいになってしまったこと」を除き,スポーツ指導経験のある教育実習生の方が困ることが少なかったと言える。

3）教育実習期間中に解決策としてできるようになったこと

表17は，教育実習中に困ったり苦労したことに対する解決策と考えられることを教育実習期間中にできるようになったかを尋ねた質問項目に対する回答結果を示している。

「最初からできていた」と回答した教育実習生が多かったのは,「生徒と一緒になって活動すること」(52%),「授業外でも生徒と積極的にコミュニケーションをとること」(49%),「担当する種目に詳しい友人に尋ねたり指導書を参考にするなどして，自分の経験や知識不足を補うこと」(42%),「教育実習校の教員や他の教育実習生など，他の人の授業を参観して，自分の授業の参考にすること」(42%）であり，これらのことについては,「最後までできなかった」という教育実習生はいなかった。

一方,「なかなかできるようにならなかった」「最後までできなかった」と回答した教育実習生の割合が高かった項目は,「教育実習校で使われている学習カードや，参考書やインターネットに載っている学習カードなど，できあがっている学習カードを授業に活用すること」(34%),「他の人が作成した学習カードを参考にして，自分の授業に合わせて自分なりに学習カードを作成すること」(33%),「技能の高い生徒に対して，少し難易度の高い課題にも挑戦する機会を与えること」(28%),「生徒に対して，厳しくすべきときには厳しい態度で話すこと」(28%）であった。これらの結果から，教育実習の最初から生徒と積極的にかかわることはできるが,「厳しくすべきときに厳しくすること」は難しかったと思われる。また,「担当する種目に詳しい友人や指導書」,「教育実習校の教員や他の実習生の授業」を参考にすることは最初からできていたが,「指導教員に事前に添削や指導をしてもらえるように時間的余裕をもって指導案を作成すること」は比較的難しかった（24%）と言える。「学習カードの作成」ができなかったと回答している教育実習生は多かったが,「教育実習を通じて，学習カードの必要性を理解すること」については,「最初から」難しくても（9%),「徐々に」理解できるようになった教育実習生は多かった(67%)。他にも,「技能の低い生徒に対して教具を工夫したり，簡単でイメージしやすい説明や言葉かけをすること」や「授業の目標や評価の基準を示してそれぞれの生徒に目標を持たせること」は,「最初からできていた」教育実習生は少なかった（それぞれ14%，19%）が,「徐々にできるようになった」教育実習生が他の項目よりも多かった（それぞれ73%，69%)。

表17　教育実習中にできるようになったこと

	最初からできた	徐々に	なかなかできなかった	最後までできなかった
指導教員に事前に添削や指導をしてもらえるように，事前に時間的余裕を持って指導案を作成すること	24%	61%	11%	4％
担当する種目に詳しい友人に尋ねたり指導書を参考にするなどして，自分の経験や知識不足を補うこと	42%	45%	12%	0％
教育実習校の教員や他の教育実習生など，他の人の授業を参観して，自分の授業の参考にすること	42%	45%	12%	0％
教育実習校の指導教員に自分から進んでアドバイスや指導を求めること	32%	58%	10%	0％
生徒に対して，厳しくすべきときには厳しい態度で話すこと	13%	59%	23%	5％
授業中，自分から機会をみつけて生徒に個別に言葉をかけること	31%	61%	7％	1％
授業外でも生徒と積極的にコミュニケーションをとること	49%	49%	3％	0％
授業が楽しくなるような工夫を考えること	30%	62%	7％	1％
授業中，生徒と一緒になって活動すること	52%	41%	7％	0％
授業中，生徒を励ましたり，良いところを見つけてほめたりするなど，肯定的な言葉かけをたくさんすること	37%	56%	7％	0％
生徒が運動動作などを適切に修正できるように，何をどうしたらいいか具体的に言葉で伝えること	20%	62%	18%	1％
授業の目標や評価の基準を示して，それぞれの生徒に目標を持たせること	19%	69%	11%	1％
技能の低い生徒に対して，教具を工夫したり，簡単でイメージしやすい説明や言葉かけをすること	14%	73%	11%	1％
技能の高い生徒に対して，少し難易度の高い課題にも挑戦する機会を与えること	9％	63%	24%	4％
教育実習校で使われている学習カードや，参考書やインターネットに載っている学習カードなど，できあがっている学習カードを授業に活用すること	13%	53%	20%	14%
他の人が作成した学習カードを参考にして，自分の授業に合わせて自分なりに学習カードを作成すること	12%	55%	18%	15%
教育実習を通じて，学習カードの必要性を理解すること	9%	67%	18%	6%
ペア分けをするときに，体格差によって怪我をすることがないように配慮すること	27%	61%	8%	4%
活動に支障をきたさないように，生徒の人間関係を考慮してペア分けを考えること	22%	55%	15%	8%
技能差や体格差があるペアがいた場合，授業中に気づいてペアを変えること	20%	56%	14%	10%

4）教育実習中に解決策としてできていたことと苦労したこと

教育実習中に解決策としてできていたことと苦労したことの関係について検討するために，解決策となることを最初から実施できていた教育実習生とそれ以外の教育実習生の２群に分けて，教育実習中に困ったり苦労したことについての回答を比較した。

表18，表19は，「担当する種目に詳しい友人に尋ねたり指導書を参考にするなどして，自分の経験や知識不足を補うこと」が最初からできていた教育実習生とそうでない教育実習生が，「指導案の作成」や「教材研究」に苦労したことがあった割合を比較したものである。表から分かるように，友人や指導書を参考に自分の知識不足を補うことが最初からできていた教育実習生の方が，「指導案の作成」に苦労することが「ほとんどなかった」という回答の割合が高く，「教材研究」に苦労したことが「かなりあった」という回答の割合が低くかった。

表20は，「生徒に対して厳しくすべき時には厳しい態度で話すこと」が最初からできていた教育実習生とそうでない教育実習生を比較した結果を示している。「生徒に対して厳しくすべき時には厳しい態度で話すこと」が最初からできていた教育実習生は，「大事な内容について生徒が真面目に受け取っているか分からない」ことに困ったことが「かなりあった」「少しあった」という回答を合わせた割合（16%）が，その他の教育実習生（33%）よりもかなり少なかった。

表21は，「技能の低い生徒に対して教具を工夫したり簡単でイメージしやすい説明や言葉かけをすること」が最初からできていた教育実習

表18 「担当する種目に詳しい友人に尋ねたり指導書を参考にするなどして，自分の経験や知識不足を補うこと」が最初からできた教育実習生と最初はできなかった教育実習生の比較

友人や指導書を参考にすること ＼ 指導案の作成に苦労すること	最初からできた実習生	最初はできなかった実習生
かなりあった	45%	48%
少しあった	32%	42%
ほとんどなかった	23%	8%
全くなかった	0%	2%
総計	100%	100%

表19 「担当する種目に詳しい友人に尋ねたり指導書を参考にするなどして，自分の経験や知識不足を補うこと」が最初からできた教育実習生と最初はできなかった教育実習生の比較

友人や指導書を参考にすること ＼ 教材研究に苦労すること	最初からできた実習生	最初はできなかった実習生
かなりあった	45%	55%
少しあった	48%	41%
ほとんどなかった	6%	5%
総計	100%	100%

生とそうでない教育実習生を比較した結果を示している。「技能の低い生徒に対して教具を工夫したり簡単でイメージしやすい説明や言葉かけをすること」が最初からできていた教育実習生は，「生徒間に技能差がある場合の授業づくり」に苦労することが「ほとんどなかった」「全くなかった」という回答の割合（43%）が，そうでない教育実習生（31%）よりも高かった。

表22は，「教育実習校で使われている学習カードや参考書やインターネットに載っている学習カードなど，できあがっている学習カードを授業に活用すること」が最初からできていた教育実習生とそうでない教育実習生を比較した結果を示している。「既存の学習カードを活用

表20　「生徒に対して厳しくすべき時には厳しい態度で話すこと」が最初からできた教育実習生と最初はできなかった教育実習生の比較

友人や指導書を参考にすること／大事な内容を生徒が真面目に受け取っているか分からない	最初からできた実習生	最初はできなかった実習生
かなりあった	8%	1%
少しあった	8%	32%
ほとんどなかった	69%	44%
全くなかった	15%	23%
総計	100%	100%

表21　「技能の低い生徒に対して教具を工夫したり簡単でイメージしやすい説明や言葉かけをすること」が最初からできた教育実習生と最初はできなかった教育実習生の比較

技能の低い生徒に対する教具・言葉かけの工夫／技能差に応じた授業づくりの苦労	最初からできた実習生	最初はできなかった実習生
かなりあった	0%	10%
少しあった	57%	59%
ほとんどなかった	36%	30%
全くなかった	7%	1%
総計	100%	100%

表22　「教育実習校で使われている学習カードなど既存の学習カードを活用すること」が最初からできた教育実習生と最初はできなかった教育実習生の比較

既存の学習カードの活用／学習カードを全く使わない単元	最初からできた実習生	最初はできなかった実習生
かなりあった	23%	21%
少しあった	15%	25%
ほとんどなかった	8%	31%
全くなかった	54%	23%
総計	100%	100%

すること」が最初からできていた教育実習生は，そうでない教育実習生よりも，「学習カードを全く使わない単元」が「全くなかった」という回答の割合（54%）が高かった。

４．結論と今後の課題

2018年度教育実習生を対象に行ったウェブアンケート調査の結果，教育実習生の半数以上が男女共習の授業を担当し，男性の教育実習生でも女子クラスを担当すること，１人当たり40人以上，60人以上の合同クラスを担当することがあることも分かった。

教育実習中に困ったり苦労したこととして多くの実習生が挙げていたことは，「教材研究」，「授業の進め方」，「指導案の作成」，「生徒間の技能差に対応した授業」，「専門的なアドバイス・技能指導が生徒に理解してもらえなかったこと」，「授業中の課題が難しすぎたり簡単すぎたりしたこと」，「生徒が授業に飽きたりつまらなそうにしていたこと」，「生徒との距離が近くなりすぎて友達関係のような言葉づかいになってしまったこと」であった。

実習生の中には，スポーツを指導した経験がない者もおり，「生徒との距離が近くなりすぎて友達関係のような言葉づかいになってしまったこと」を除いた他の困りごとについては，スポーツ指導経験がなかった教育実習生の方がより苦労していたことが示唆された。また，教育実習生は，教育実習期間に多くのことを学び様々なことができるようになっていくが，「生徒と一緒になって活動すること」など生徒と関わることは最初からできている教育実習生が多く，「担当する種目に詳しい友人に尋ねたり指導書を参考にするなどして，自分の経験や知識不足を補うこと」，「教育実習校の教員や他の教育実習生など，他の人の授業を参観して，自分の授業の参考にすること」も最初からできていた教育実習生が多いが，「指導教員に事前に添削や指導をしてもらえるように時間的余裕をもって指導案を作成すること」はなかなかできていなかった。

一方，「教育実習校で使われている学習カードや，参考書やインターネットに載っている学習カードなど，できあがっている学習カードを授業に活用すること」など学習カードを活用することや，「技能の高い生徒に対して，少し難易度の高い課題にも挑戦する機会を与えること」，「生徒に対して，厳しくすべきときには厳しい態度で話すこと」は，なかなかできるようにならなかったが，教育実習を通じて多くの教育実習生が，最初はできなかった「学習カードの必要性を理解すること」や「技能の低い生徒に対して教具を工夫したり，簡単でイメージしやすい説明や言葉かけをすること」，「授業の目標や評価の基準を示してそれぞれの生徒に目標を持たせること」ができるようになっていった。特に，教育実習生が困ったり苦労したりすることの解決法になる得ることを教育実習の最初からできていた教育実習生は，困ったり苦労したりすることが少ない傾向にあることも分かった。

以上のことから，教育実習に向けて，事前に１）スポーツを指導する経験を全員に保証すること，２）男女が混じっている集団や大きな集団を指導する経験，３）教育実習以前に，自分の専門種目以外のできるだけ多くの種目について，指導書や経験者を参照して指導方法について学んでおくこと，４）既成の学習カードや指導案に親しみ，それらを活用して学習カードや指導案を作成することや，作成した指導案を相

互にチェックし合うなどして指導案に対する指導に慣れておくこと，５）規律やけじめについて指導できるようにすることが，必要であると考えられる。

参考文献

１）深見英一郎：体育授業における教師の効果的なフォードバック行動に関する検討．平成29年度博士論文（筑波大学），2007.

２）木下光正：体育科授業成功の極意．明治図書，2016.

３）小林治雄：体育授業が必ずうまくいくマネジメント術．明治図書，2016.

４）京都市総合教育センター:授業力向上に向けて大切にしたい視点．http://www.edu.city.kyoto.jp/sogokyoiku/curri_c/fromkyoto/8_jugyoryoku/index.html 中村利之・田島行夫・廣橋義敬：体育指導における学習カードの活用に関する研究．千葉大学教育学部研究紀要, 43, 43-55, 1995.

５）野田義勝・堤公一・福本敏夫：体育授業における学習カードの効果とその活用法―中学校２年保健体育科「器械運動」の授業を通して．佐賀大学教育実践研究，29，237-246，2017.

６）大舘昭彦：中学校における教師と生徒の心理的距離と生徒の生きがい感との関連．日本教育心理学会総会発表論文集, 41, 445, 1999. https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjaep/41/0/41_445/_pdf/-char/ja

７）志水廣・小林美紀代：初任者教師の授業力向上のための手立て―授業診断表に基づく事例研究．愛知教育大学教育創造開発機構紀要, 4, 139-147, 2014.

８）高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖（編著）：新版体育科教育学入門．大修館書店，2010.